

教育理念	学ぶ楽しさを知り自ら学ぶ力と豊かな人間性を身につける
目標(テーマ)	・基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 ・学ぶ楽しさを体験する科学的授業で、生涯を学ぶ人に ・目覚めよ！自分力。やりたいことにチャレンジ ・徹底的な個人指導と親身なサポート体制

※評価基準…A:達成できている B:どちらかと言えば達成できている。 C:どちらかと言えば不十分である。 D:不十分である。

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方策	
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができています。	B	教育課程の編成・実施の考え方について、理解度を向上させる余地がある。各教科の年間計画を基に遂行していく。生徒の個々の状況に応じた対応は、担任制により行っている。1担任当たり約100名の生徒を受け持っているが、連絡がつきにくい生徒への対応が課題となった。	全体での研修や科目担当者との打合せができる機会を増やしていく。また、学校内での教務担当を増やし、全体として知識の向上を図る。	
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	B			
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	B	校務分掌や各主任・主事体制が整備されたが、事務長中心の組織で、各主事の業務が十分に機能するまでには至らなかった。	各主事の責任と権限を明確にし、自ら動く体制を構築する。教職員、事務職員間の連携・情報共有の為、職員会議やスクーリング会議などの定例会議以外に、各委員会を充実させ、危機管理意識の向上を図るとともに、より高い運営をしていくよう努める。	
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A	教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。		
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	B	毎週定期的に会議を行っており、良き情報共有の場とすることができている。教員、事務職員全てが参加する為、連携が取りやすい体制である。		
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。	A			
	財務関係	学校経営の安定性	経営・財務が安定し、十分な教育活動を行うことができる。	A	グループ全体で単年度黒字経営。累積赤字もなく、経営は安定している。	人員の適切な配置、経費の削減を行い、資金を教育活動に投資していく。経営者が参加する職員会議を設け、運営状況の理解を深めるよう努める。	
		財務に関する意識	経営指標と財務状況について理解している。	C	経営指標・経営状況についての理解に関しては、全ての教職員が理解しているとは言えない。運営状況を提示し、共有を図りながら努める必要がある。		
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況に関して理解している。	C			
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	B	関係各所(警察・消防・学校医等)の連携はとれている。	事務長不在時でもそれぞれが役割を認識し、主体的・能動的に動けるよう改善していく必要がある。	
		安全管理	学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。	B	学校内での大きな事故や災害は発生していない。事務長中心の体制が継続しており、役割分担には課題を残している。		
		危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	B	個人情報については、プライバシーマークを取得し、全員が研修を行って意識を高めている。		
		個人情報管理	生徒情報管理が適切に行われている。	A			
	施設・設備	施設・設備の状況	教育活動に必要な設備・備品を整えている。	A	スクーリング時に必要な体育の備品(卓球台等)や理科の実験器具等、必要な備品は適宜揃えている。	生徒に少しでも満足してもらえるよう、必要なものには積極的に投資をするよう努める。	
		渉外	生徒募集	学校説明会の実施や学校案内パンフレットなど、効果的な広報に工夫・充実させる。	B	学校説明会を定期的且つ広範囲で実施し、生徒募集をすることができた。	ニーズのある地域での学校説明会をさらに強化し、入学を検討している方への利便性を高める。また、入学相談拠点の拡充も検討していく。
	各教育機関との連携		市町村教育機関への訪問や県私学連絡協議会加盟校と連携した広報活動をしていく。	A	学校への学校訪問を実施し、教育活動への理解を求めた。		
	教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	A	スクーリング参加日程が複数回ある為、担任と相談の上、自身の都合に合わせて参加しやすい仕組みになっている。面接授業の評価については科目によっても異なり、体験学習や体育等が高い傾向にあった。座学においてもメディアを活用して興味を引くようにするなど工夫をしていく必要がある。インターネットを活用したレポート内容(向上する)が上がるような内容に修正していくよう努める。	ベテラン教員による授業研修を行い、経験の浅い教員のレベルアップを図る。インターネットを活用したレポート内容については、択一問題中心のレポートから、記述式を導入する、動画による繰り返し学習の環境を整える等、学習成果(興味・関心・意欲)があがるよう早急に改善していくよう努める。
			スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開していく。	A		
レポート内容・添削			レポートが学習成果(興味・意欲・関心)につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の遅延がないよう、計画的な業務を行っている。	B			
情報発信		ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	学校独自のネット開設(通称:マイページ)により、学校イベントなどの情報提供を行っている。また、定期的な発行物(通称:駅前キャンパス通信)を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行っている。しかし、閲覧率、開封率については調査をしていないため、確認していく必要がある。	学校の事務的な情報提供だけでなく、ブログ等のSNSを活用した学校の雰囲気をつかむことができるツールを活用していく。	
		個人に対する効果的な情報提供	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、生徒個々の学習進捗が確認できる。	B			
情報教育		情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点をおき、タブレット(IPad mini)を使用しながら取組んでいる。また、インターネットにおける若年者のトラブル・危険性についても理解を深める授業を行っている。	情報ツールを活用したコミュニケーション方法を通してより活用能力を高めることができるよう努めていく。継続してインターネットによるトラブルについては理解を促すよう努める。	
	情報モラル指導	情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組む。	B				
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)を高める。	B		生徒・保護者との連絡・連携が効率よく行えるよう整備が必要である。生徒指導においては、外部機関との連携を強化し、より質の高い生徒対応ができるよう努める。	
		生活指導について	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。	B	生活指導はスクーリング時には十分対応できている。家庭との連携については担任に依存しているところがあり、組織的に進んでいくことが課題である。		
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	B			
	進路指導	キャリア教育について	キャリア教育(進路指導)に取り組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取組みが実践されている。	B	希望進路実現(進学・就職)に向け、SL時に面談を行い早期に方向性を固めよう努めている。しかしながら進学・就職共に、試験対策等の指導をより強化していく必要がある。	進路指導においては、東京本部に依存しており学内で行う体制にする必要がある。ハローワークなどの関係各所との連携を強化し、成果があがる仕組みづくりを行うよう努める。	
保健指導	健康の保持増進について	心身ともに健康であるための支援(定期連絡やスクーリング時における授業にて支援)	B	保健の授業において、生徒の健康管理への理解を深める	視聴覚教材や外部講師による授業など、年間計画をたてて更なる質の向上を図っていく。		
その他	教職員研修	資質向上	教職員間で職務内容(生徒対応など)を把握し、意見交換などを行う機会を設定している。	A		校内外の研修に、姉妹校と共同で参加できる体制を整える。	
		研修の充実(校内・校外)	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されている。	B	生徒・保健指導研修や教科研修についての研修は実施している。また、毎週行われる会議を通して意見交換を行い、教職員間で方針の統一を図っている。姉妹校との連携は距離の問題もあり不十分である。今後、WEB会議等、情報システムを活用して情報交換を進める必要がある。		
		他校及び関係機関との連携	姉妹校との連携を深め、通信制高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。	A			
地域との連携	地域への貢献	地域行事への参加、経済的貢献	B	秋祭りへの参加、草刈り業務を自治区に委託、イベント練習会場の提供を行った。経済的貢献においては、スクーリングで使用する宿泊施設、食事、バス等、豊田市内の施設、事業者を積極的に活用した。	立地や通信制高校であるがゆえの難しさはあるが、生徒も参加して共に地域を発展させられるよう努める。		

校長	教頭	事務長
		